

「DXで業界の未来を」



SPECIAL INTERVIEW

サミー株式会社 代表取締役社長CEO

里見治紀

Haruki Satomi

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、ビジネスシーンにおいてデジタルトランスフォーメーション（DX）の動きが広がっている。そんな中、サミーグループはこのタイミングで新しいECサイトを立ち上げた。里見治紀代表取締役社長CEOに今後の展開を聞いた。

——新型コロナウイルスの感染拡大によって、世の中が大きく変わりつつあります。この状況をどう見ていますか？

里見社長（以下、敬称略） 緊急事態宣言による外出自粛期間中は、時間やお金の使い方、人との付き合い方などのプライオリティを強制的に考えさせられた期間でした。今まで忙しくてそんなことを考える余裕がなかつた人たちも、みんな改めて考えたはずです。それにようつて世の中がニューノーマルへとシフトチェンジしてきました。コロナ以前の価値観はもう戻ってこない。私たちのビジネスもそれに合わせて変わらなければ、生き残つていけないだろうという危機感を持っています。

——働き方も変わりました。貴社は比較的早い時期から在宅勤務に切り替えましたが、いつごろから準備を始めましたか？

里見 きっかけのひとつは、「ユニバーサルカーニバル×サミーエステイバル2020」の中止でした。開催日（2月22日）の1週間前までは開催できるのではないかと思っていましたが、2月17日に屋外の催事である天皇誕生日の一般参賀や東京マラソンの中止が発表され、一気にイベントの開催が難しくなっただけでなく、新型コロナウイルスに対する世間の見方が一変したように感じました。また時期を同じくして、本社ビルに勤務するグループ社

員が高熱に見舞われ、PCR検査を受けるという情報が入ったため、PCR検査の結果を待つ間、最悪の事態を考え「出社禁止になるかもしれない」ので準備をするように」と指示を出しました。幸いその社員は陰性だったので大事には至りませんでしたが、その後から在宅勤務への準備は開始していました。

——リモートワークへの切り替えはどうやって行ったのですか？

里見 パソコンがあればできる事務系の業務以外に、機材がないと作業が進まない開発業務があります。そのため開発では機材を自宅に送らせて、自宅で遊技機開発ができるような体制を3月中に整え、在宅勤務を推奨しました。早め早めに手を打つことで、緊急事態宣言が出た頃はもう社員の半数が出社していないような状況でした。緊急事態宣言中になると出社率は1%程度。それでも会社は回りました。宣言解除後も柔軟な働き方ができるよう、在宅勤務も可能としたハイブリッドなルルに変えていきます。

——社員のモチベーションはどのように管理していましたか？

里見 緊急事態宣言中、オンラインでのタウンホールミーティングを実施し、社員の不安を解消するようにしていました。また、トップメッ

セージとして「取引先、お客様、ファンの安全・安心はもちろん、社員及び社員の家族の安全・安全を最優先に考える」と何度も発信しました。そうしたことで社員の意識もグッと変わってきたのだと思います。

ニューノーマルへの対応

——緊急事態宣言中には業界バッシングが起きました。

里見 休業要請に応じなかつた店舗の行列をメディアが報じました。平時でも朝の行列は近隣各所からのクレームを引き起します。当社グループのサミニネットワークスはこれを解消するために、「777CON-PASS」（スリーセブンコンパス）というサービスを提供しています。これはアプリで入店順の抽選を受けられるもので、利用ユーザーは店頭に並ぶ必要がありません。ホール様にもオペレーションのコスト削減やクレームの発生防止などのメリットがあります。7月7日にはサークルKがダウンするほどアクセスが集中して、ご利用の皆様には大変なご迷惑をおかけしました。今回の件で、私たちが想定していた以上のニーズがあることを改めて実感しましたので、今後は運営体制を一層強化し、安定的なサービス提供を徹底していきます。

——新型コロナが感染拡大するにつれて、メ

続きは月刊アミューズメントジャパン
9月号をご覧ください